

シラバス

2020 年度

ファインアート科・ビジュアルデザイン科 1 年

本物にふれる 本当の力をつける



学校法人高澤学園 美術造形専門学校

創形美術学校

ファインアート科/ビジュアルデザイン科/研究科

履修ガイド

1. カリキュラム

- (1) 授業について単位を修得するためには2/3以上の出席が必要となる。止むを得ず授業を欠席する場合、必ず事前に学校へ連絡すること。
- (2) 原則、指導日の授業開始時に出欠確認を行う。遅刻・早退は記録し、欠席扱いとなる場合がある。
- (3) 交通機関の遅れに関しては必ず遅延証明書を提出すること。
- (4) 各授業の出講表・シラバスとして授業内容の他、学習目的、予習、準備物、注意事項とともに評価方法及び教員・講師の出講日も記載。授業の1週間前にはアトリエに出講表を掲示。また学校ホームページでも確認することができる。
- (5) 指導日以外は授業が休みということではない。指導日以外の日も各自で制作を進めること。授業期間で制作を行うことで時間数に基づき単位がそれぞれ設定されている。スケジュールを確認し、作品提出日をしっかりと守ること。
- (6) 気象庁より23区に災害警報（暴風警報・大雪警報等）が発令された場合は原則休校となる。その場合は、学校から休校のメール連絡を行う。
- (7) 日曜、祝日において基本的に学校は休日（附帯教育は除く）となるが、場合により日曜、祝日を授業日とすることがある。新年度ガイダンス時配布のスケジュールに記載されるのでよく確認をすること。
- (8) アトリエ開放日は、休日において授業日以外の目的でアトリエを学生に開放する。ただしこの場合、使用できるアトリエは学校の指定するアトリエのみとなる。

2. 単位の認定

- (1) 実技=課題の採点により合格と認定のあった学生には、所定の単位を与える。
学科=試験、課題(レポート含む)等の採点により合格と認定のあった学生には、所定の単位を与える。
- (2) 単位計算の基準=各授業科目（実技、学科共）に対する単位は週90分半期17週相当（25.5時間）の授業をもって1単位とする。

3. 進級の要件

本校の学生が進級するには、1年間の修得単位が31～33単位以上なければならない。

4. 卒業・修了の要件

本課程の学生が卒業するには3年以上在学し、かつ所定の96単位以上修得しなければならない。

研究生は1年以上在学し、かつ所定の32単位以上修得しなければならない。

5. 履修に関する注意

- (1) 学生の履修は在籍する科の指示に従い、受講する科目は原則として全て履修する。
- (2) 授業途中からの受講は原則として認めない。
- (3) 受講した科目は、原則として変更することはできない。
- (4) 選択を希望する科目で受講人数が多い場合は、人数制限を行う事がある。

6. 採点

- (1) 受講した科目は課題(レポート含む)を提出しなければならない。
- (2) 必要に応じて授業内で課題(レポート含む)提出を複数回、行なうことがある。
- (3) 科目の採点は、授業終了時に行なわれる。
- (4) 採点の方法は課題(レポート含む)の提出を含む総合的な評価で採点する。
※評価方法はシラバスに掲載
- (5) 受講した科目の出席日数が、3分の2以上に満たないものは、原則として採点を受けることができない。

7. 追採点

病気その他やむを得ない事由により課題(レポート含む)を提出することができなかった者に対し、事前にその旨連絡のあった場合に限り、願い出により実施することができる。ただし課題(レポート含む)内容は授業内の課題(レポート含む)と異なる場合がある。

8. 採点基準

- (1) 採点は、60～100を合格とし、それ以下を不可とする。
- (2) 配点区分は次による。

採点	評価	
100～95	AA	合格
94～80	A	
79～70	B	
69～60	C	
59～0	D	不可
保留	-	仮処置

- (3) 採点保留(仮処置)による扱い

※学科において採点の結果、点数が59点以下の場合、不可となり原則として次年度以降において再履修となる。

※授業を担当する講師による採点が保留となった場合は、追課題（レポート含む）が課せられる。追課題の採点は専任の判断に委ねられ、成績会議によって認定される。

※修得単位数が1年次、2年次それぞれで15単位以下、または1・2年次を通じて合計32単位以下は留年となる。

9. 学科再履修

採点の結果、不可となった者は次年度以降において原則としてその学科目を再履修しなければならない。ただし、在籍学年の履修を優先とするため、履修科目の変更、または再履修年度の変更についての決定は学校の指示に従うこととする。

10. 仮進級及び卒業・修了資格判定及び卒業・修了判定

- (1) 本課程は前期授業と後期授業において学科・実技の履修状況の確認を学期末に学生・保護者に郵送する。単位不足のある学生は学校の指示に従い、不足分の単位修得を行わなければならない。
- (2) 卒業・修了年次においては11月に卒業資格判定を行い、判定結果の掲示を行う。その際に出席、学科、実技などを考慮した結果、卒業・修了資格なしと判定のあった者は卒業・修了制作を着手する事ができず、卒業および修了不可となる。判断保留の学生については、3月において卒業・修了判定を行い、単位の修得状況によっては卒業・

修了制作の提出があっても卒業・修了不可となり、留年もしくは卒業・修了延期となる場合がある。

- (3) 学費において未納がある場合、卒業・修了判定において卒業・修了不可もしくは除籍となる場合がある。

1 1. 専攻を越えた授業

専攻を跨いで受講することが可能。ただし専任教員の許可が必要。

- (1) 授業開始の2週間前までに専任教員に「受講届」を提出、面談、了承を得てから受講すること。
- (2) 授業によっては、そこで使用する道具、機材やソフトなどの関係で受講できないことがある。
- (3) 原則、自身の専攻を疎かにしない範囲での受講となる。
- (4) 「受講届」は学校ホームページよりダウンロードできる。

1 2. 授業単位サポート制度

「授業単位サポート制度」とは単位修得をサポートするための制度。いずれも専攻担当専任教員と面談を通じて認定される。

代替授業、学外活動を通じて認定

- (1) 所属専攻、該当学年の授業以外の授業を受講することによる単位修得（単位数：受講授業単位に準ずる）

※所属専攻の授業と重複した場合は受け入れ授業の担当教員の許諾により、途中からの受講、中抜けも認め、その場合のみ出席扱いとする。

- (2) インターンシップに参加、レポートを提出することによる単位修得（単位数：1単位）

※2年次の「インターンシップ」の授業と同様のインターンシップを、授業以外の期日に行った場合に認める。

「インターンシップ」の授業同様に書類、レポート提出が必須。採点方法は受入会社の評価に従い採点。

- (3) ボランティア活動などによる単位修得（単位数：活動期間に準ずる）

※単位認定は原則、実質1日8時間のボランティア活動を5日行う事で1単位とする。

事前に専攻担当専任教員による面談を行い、ボランティア活動を行った後に「ボランティア活動報告書」の提出をもって認定。採点評価。

認定されるボランティア活動に、豊島区の国際アート・カルチャー活動を含む。

(4) 学外コンペに出品することによる単位修得（単位数：1 単位）

※専攻担当専任教員にコンペの内容を事前に報告し、出品前に専攻担当専任教員の講評を受けて出品すること。

ただし授業の一環として行われた学外コンペの出品は認められない。

例：「JAGDA 学生グランプリ」「アワガミ国際ミニプリント展」「回遊美術館」

「GU タペストリーコンペ」 etc

特別支援授業を通じて認定

(1) 特別支援授業を受講することによる単位修得（単位数：各 1 単位）

受講料：1 講座 15,000 円 / 採点方法：提出作品、試験、レポート等によって採点。

※特別支援授業とは、単位取得を支援するために行われる授業。春季休暇、夏期休暇に実技授業・学科授業が開設。授業日の前の週までに事務局窓口で受講することを告げ、受講料を支払うことにより受講が認められる。

1 3. 参考作品

提出のあった課題作品、およびレポートについては原則として採点終了後、すみやかに返却を行なう。場合により参考作品として一定期間預かり、授業の資料として授業時やガイダンスなどで使用する事がある。また、学校案内用の印刷物や広報（ホームページ、SNS など）および学校外など授業以外での目的で作品を使用する事がある。

1 4. シラバス・出講表・年間行事

シラバス、出講表、年間行事は学校ホームページで閲覧できる。

※年間行事の変更があった場合には、その都度更新される。

1 5. 各種書類

以下の書類は学校ホームページよりダウンロードできる。

(創形ホームページ → 学生生活 → スクールガイド →)

「住所変更届」「欠席届」「忌引届申請書」「感染症登校許可証明書」「学籍移動申請書」

「休学願」「受講届」「インターンシップ実習レポート」「ボランティア活動報告書」

*新型コロナウイルスの感染症拡大の影響に伴い授業日程（時期・期間・時間帯など）、授業内容、使用アトリエなどが変更になることがあります。詳細は出講表を確認してください。

ファインアート科・ビジュアルデザイン科

シラバス

前期学科授業名：「文章技法論」 担当講師：太田克彦

***留学生は日本語能力試験 N1、美術日本語と選択**

学習目標：文章を書くことに対する苦手意識をまず払拭し、言葉を連ねる作業の楽しさを実感する。このトレーニングにより、言葉が美術制作をするときに、色や形や空間を構成するうえでより効果を上げていく役割を果たせるようにする。

授業内容：伝えるための道具として言葉を使う前に、しりとりや回文、川柳といったナンセンスやリズムによる言葉遊びから始める。与えられたキーワードで絵を描いたあとから作文するという方法により、想像力を広げていく。

前期学科授業名：「色彩論 I」 担当講師：初谷希代香

学習目標：『色が見えるしくみ』、『色のとらえ方』、『色の心理的影響』、『色の組み合わせ方とそのイメージ』など、色の専門知識の基礎を学習し、色の効果を活用した作品制作をおこないます。

授業内容：色の効果を活用した作品の制作（コンクール応募作品含む）
A F T 色彩検定 3 級対応

前期学科授業名：「MAC 講座 A」 担当講師：タカハシマホ

***アートとデザインと社会と授業を 1 限。2 限の入れ替え制で行います。**

学習目標：Illustrator および Photoshop の基礎的知識を身につけます。

授業内容：実際に制作をしながら基礎操作に必要な知識、技術を学びます。

前期学科授業名：「日本美術史 A」 担当講師：北 進一

学習目標：古代から中世までの日本美術は、東アジア文化圏の産物の一端として、そのイメージの源泉のほとんどを朝鮮半島や中国大陸に求めることができる。本講は、仏像・仏画・絵巻物・水墨画などを取り上げ、朝鮮や中国の作例と比較して、それらの造形（イメージ）の本質を具体的に追求してゆく。日本美術史を従来の様式論でおさえるのではなく、イメージの解説という新たな視点から日本文化史の中に位置づけて探求してみたい。

授業内容：最初に法隆寺金堂釈迦三尊像や玉虫厨子、広隆寺弥勒菩薩半跏思惟像など飛鳥時代の仏教美術から始まり、奈良時代の興福寺阿修羅像や東大寺法華堂不空罽索観音像、平安時代の神護寺薬師如来像と東寺講堂諸仏、平等院鳳凰堂阿弥陀如来像、平安仏画、鎌倉時代の運慶仏などの仏教美術を通観する。その後、平安末期の信貴山縁起絵巻や鳥獣戯画、室町時代の雪舟・雪村などの水墨画を取り上げ、古代・中世の日本美術の本質を探ってゆく。

後期学科授業名：「視覚文明史」 担当講師：太田克彦

学習目標：制作上の技術は必須である。しかしそれはあくまでも必要条件。名作と呼ばれている作品には、すべて優れた発想と想像力がある。したがって作品内容をより高めるための発想力を身につける方法を学ぶ。

授業内容：古代から現代、そして未来までのパースペクティブを、視覚文化という次元から検討する。その分野は文学や演劇、ダンス、ファッションから音楽にまで広げ、それらが美術とどのように関わっているのかを学習する。

後期学科授業名：「MAC 講座 B」 担当講師：高林直俊

学習目標：イラストレーターやデザイナーなどデザイン業界に携わる立場になった際に、ウェブや印刷物のデータ作成に必要な基礎知識やスキルなどを身につけることを目指します。またアーティストや他業種などの道を選ぶにしても自己アピールの際に必要な最低限のスキルを身につけます。

授業内容：基礎的な PC の使い方、Illustrator および Photoshop の基礎的知識、技術を身につけるための授業を行います。

後期学科授業名：「日本美術史B」 担当講師：北 進一

学習目標：近世以降の日本美術は、中世までの宗教色の濃い美術から脱し、世俗的で鑑賞性の高い美術へ変貌してゆく。本講は、桃山時代の障壁画や江戸絵画などを取り上げ、独自の色彩と形態を追求してゆく有様を見てゆく。日本美術史を従来の様式論でおさえるのではなく、イメージの解説という新たな視点から日本文化史の中に位置づけて探求してみたい。

授業内容：最初に日本絵画の黄金時代とされる桃山時代の絵画、特に狩野永徳と長谷川等伯の絵画などから始まり、俵屋宗達や尾形光琳の琳派絵画など江戸時代の絵画へ展開してゆく過程を探究する。その後、池大雅や与謝野蕪村などの文人画、円谷応挙などの写実派、伊藤若冲などの奇想派や浮世絵師の絵画を取り上げ、江戸絵画の本質を探ってゆく。

選択学科(前期・後期)授業名：「英会話」 担当講師：ティム・ウェイレン

学習目標：芸術やデザイン分野で活躍しようと思っている人たちに役立つ表現および単語に焦点を合わせて基本英会話レッスン。

授業内容：海外の友達と会話するときや、芸術・デザインの世界の現場で英語を使うときでも、スムーズにコミュニケーションができるように、レッスンはフリートーク、リスニング演習、簡単なテキスト（プリント）の三つの部分に分けられています。リラックスした雰囲気の中で自分の英語力を伸ばしましょう。

選択学科(前期・後期)授業名：「フランス語 I」 担当講師：内田雅之

***留学生は日本語能力試験N1 対策と選択**

学習目標：全くの初心者を対象としてフランス語の初級文法や初歩的な会話表現を学びます。講義ではCDを常に使用しながら音声に慣れつつ、コミュニケーション・ツールとしての側面を最初から意識していきます。また、関係項目のプリントなども配布しながら、文化的側面に広く触れ、ともに考える機会となることを心掛けていきます。

授業内容：前期は、挨拶や自己紹介などの簡単な会話表現から始め、そこから派生して実践的な方向へ進んでいく流れを、〈ウォームアップのためのダイアログ〉として学んでいきます。その過程で生じる疑問を解消する形で初歩的な文法を学んでいきます。後期は前期で学んだ一連のダイアログの習熟を常に忘れないようにしながら、テキストを使用した演習へと移行していきます。

〈ウォームアップのためのダイアログ〉について

身体訓練の前に必ず身体をほぐすための準備体操があるように、授業開始前に毎回頭の環境を調えるために行う相互会話訓練をさします。各々がその日の自分と向き合いながら、教室を空間として意識しつつ、時に動きながらフランス語を声に出して実際に使用します。特にこの訓練において、実用面となぜか結びにくいように観察できる学習初期段階での問題点を、お互いに検討しながら、各々の目的・関心に見合った外国語のスムーズな吸収と、なるべく楽で心地よい”体内外国語習得回路”の自覚的な開発を意識できる機会になれば、という大きなねらいもあります。その際、場合によっては「人と話す」とはどういうことかという原初的な観点も必要になるかもしれませんし、あるいは演劇などのような他芸術分野での方法論に助けを求めることもあろうかと思えます。

前期学科授業名：「日本語能力試験 N1 対策(留学生対象)」 担当講師：蔣 燕萍

***留学生は文章技法論、フランス語と選択**

学習目標：①日本語能力試験 N1 に合格できる力を付けること。

②試験対策にとどまらない全般的な語彙の力をつけること。

授業内容：試験に出題される「文字語彙」「文法」「聴解」の練習問題の解答を通じて日本語力を向上させること。

前期・後期学科授業名：「美術日本語(留学生対象)」 担当講師：メロス言語学院講師

***留学生は文章技法論と選択**

学習目標：美術・デザインに関する専門用語の勉強によって、日本語（特に口語能力）の向上を目標として挙げます。

授業内容：1. 1 分間スピーチ（30分）

2. 美術関係記事についてのディスカッション（50分）

3. 映像教材を用いた美術用語導入（90分）

4. 前回導入した美術用語のチェック小テスト（10分）

5. 課外宿題

授業名：「特別講座／就職セミナー」 担当講師：ゲスト講師

学習目標：特別講座：現代社会においてクリエイターの役割は益々重要性を増し、その領域は日々拡大しつつあります。講座では創作における考え方、発想をリアルタイムな講義を通して学んでいきます。

就職セミナー：就職活動から入社後の心構えやクリエイターとしての取り組みなどについてセミナー講座を開催。

*1年生は夏課題と合わせて単位修得

授業内容：9/26(土)同窓会特別講座、12/12(土)創形展特別講座、2/20(土)1年生就職セミナー+夏課題

前期実技授業名：「5つの力(技法力、観察力、構成力、企画力、表現力)」

担当講師：鈴木吐志哉、工藤礼二郎、山本哲次、岡山拓史、飯田 淳

学習目標：基礎課程として1年次に、表現の根本になる5つのエレメントに分けて指導を行う。5つのエレメントとは「技法力」「観察力」「構成力」「企画力」「表現力」を指す。将来どんな活動をする上でも基本的な「体」ができていないと多様なものは生まれてこない。1年次前期で基礎力をしっかり身に付けることで、クリエイティブの入り口に立つことができ、2年、3年の授業も「なぜこれをやるのか」を理解できるようになる。その一番大事な部分を取り組む授業が「5つの力」である。上手に描けていながら、自分の描写力に自信のない人。そういった人がこの5つの力を通過する事によって苦手意識を克服し、次世代のプロを育成する足がかりとする。もの作りの構造を理解し、時代に対応できる力をつけることを目標とする。

授業名：「技法力」 担当講師：鈴木吐志哉

授業内容：技法力は様々な技法から生まれる表現を体験しながら探る授業です。まずフロッター
ジュから始まりモノタイプと、直接描くことでは得られない間接表現の魅力を学びま
す。さらに本校収蔵の葛飾北斎「神奈川沖浪裏」復刻版の版木をキーワードに、自由
な表現による木版画、コラージュへと展開させてゆきます。

授業名：「観察力」 担当講師：工藤礼二郎

授業内容：観察力では単に描写力を鍛えるだけでなく、描くことを通して物事を深く見つめるこ
とのできる力を養っていきます。それはプロのクリエイターとして必要かつ重要なこ
とです。じっくりと物と対話しながら描くことの面白さと大切さを学びます。

授業名：「構成力・アートとデザインと社会」 担当講師：山本哲次、田中北斗

授業内容：構成力は構図、レイアウトなど、組み立てる力をつける授業です。対象物をじっくり観察し、特徴を捉え、どういう構図やレイアウトがベストなのか、作品の分析や制作を通して身につけていきます。同時にデザインの考え方を学んでいく授業です。

○アートとデザインと社会： 日程は出講表を確認すること。

*Mac 講座 A と 1 限、2 限の入れ替え制で授業を行います。

授業名：「企画力」 担当講師：岡山拓史

授業内容：個人が企画やアイデアを求められる場面は現代社会では非常に多くなっています。企画力ではアイデアの出し方、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、実現力などクリエイティブの世界で必要となるスキルを課題制作を通して養います。

授業名：「表現力」 担当講師：飯田 淳

授業内容：表現力は柔らかな発想のもと、物や事、ストーリーを色で表現する授業です。決めつけで物を作らず、固定概念に囚われない事。意外性のある課題を通して「自分の枠」を飛び越え、個性が重視されるイラストの世界に近づくための授業でもあります。

前期実技授業名：「伝統と現代」 担当講師：小林大悟

学習目標：「日本美術」を題材に、ときに拡大解釈も混じえながら実技制作を行なっていきます。この授業で重きを置くのは技術習得や作品の出来上がりではなく、不慣れな画材を通じてそれぞれが実験・発見を積み上げていくことです。そのため前半では複数人での共同制作や鑑賞会といった少し変わった環境を織り交ぜ進めていきます。授業を通じ日本美術へと関心を持つきっかけをつくること、今後専門分野に分かれても応用していける引き出しをつくることを目指します。

授業内容：日本における「伝統」「工芸」とは何か。ワークショップ形式の授業を交えながら様々な素材や題材に触れることで、今後の引き出しとなる経験を積んでいきます。

前期実技授業名：「前期ファインアート基礎」

担当講師：工藤礼二郎、鈴木吐志哉

学習目標：現代の絵画や版画に強い影響を与えた西洋近代絵画の種々の表現に触れ、絵に対する視野を広げながら描くことの楽しさを見つける授業です。

授業内容：17世紀の「カメラ・オブスクラ」に始まり19世紀に確立された「写真」は絵画表現にも多大な影響を与えました。この授業では「写真のように描く」といった直截的な手法ではなく「写真」の中の様々な要素を抽出、拡大、整理、合成などの手法を用い、近代以降様々な表現を生み出した「絵画」の世界を紐解きながら絵画の魅力と可能性を再発見してみましよう。

前期実技授業名：「前期ビジュアルデザイン基礎」

担当講師：山本哲次、岡山拓史

学習目標：○自分の好きなミュージシャンのCDジャケットとポスターをオリジナルで制作します。

授業内容：イラストや文字情報を限られたスペースの中に収めながら、音楽から受けるイメージを広げて、ビジュアルで表現することを学びます。

後期実技選択授業名：「銅版画基礎」 担当講師：長島 充

学習目標：銅版画の基本的なエッチング技法での制作により版画に親しんでもらう。「自然物」をモチーフに線描と点描によるモノクロームの描写力・表現力を養う。

授業内容：腐食銅版画の中で最も基本的な技法であるライン・エッチング技法によりモノクロームの銅版画 1 点(18×24 cm)を制作します。ドローイングにも感覚の近い線描と点描を用いて自然物を観察し銅板という物質に表現していきます。

後期実技選択授業名：「シルクスクリーン基礎」 担当講師：東樋口徹

学習目標：シルクスクリーンは別名孔版と呼ばれ、型染めの型紙と紗が組み合わせられて改良されたものです。枠に張った紗の目を不必要な部分は塞ぎ、画の孔（穴）の部分からスキージによって下の紙にインクを落として刷る技法です。授業においてはいくつかの製版方法がありますが、現在一般的に行われる直接感光法を学びます。基礎を身に付け各自のイメージに近づける作品作りを目指します。

授業内容：基本的な水性インクで紙に刷る 4 版以上を使った作品（A4 / 21 cm × 29.7 cm）を一点（紙 8 枚程度）制作。

後期実技授業名：「イラストレーション基礎」 担当講師：飯田 淳、岡山拓史

学習目標：イラストレーションの仕事と自分らしい表現の発見。

授業内容：イラストレーションの仕事において求められる事・物を企画。アイデアを通して学ぶ。
イラストレーションのマーケットでのオリジナリティー、個性の重要性を作品制作で体験する。

後期実技選択授業名：「テンペラ画」 担当講師：安藤孝浩

学習目標：中世美術からルネッサンス期を経て現代にまで受け継がれてきた卵テンペラ技法を学ぶ。卵で作る絵具の造形の自由さ、楽しさを学ぶ。ここでは技法と描写の関係を理解し、絵画表現の幅広い可能性を追求する。絵画模写をしながらテンペラ技術の基礎と応用を修得する。

授業内容：木材板の基材に地塗りをしてパネルを作る。卵テンペラ（水性画材）をつくり、描画材として絵画模写をする。

後期実技選択授業名：「フレスコ画」 担当講師：杉崎匡史

学習目標：油彩画以前の一つの古典技法であるフレスコ画技法は、消石灰と砂を混ぜたもので漆喰壁を作り、その壁が乾き切らぬうちに顔料を水のみで溶いて描ききるもので、空気中の二酸化炭素と反応した石灰成分が顔料を閉じこめ、半永久的に壁画は色褪せることがない。壁や石灰といった素材の強さにおいては代え難いものがあり、光沢の無い自然な質感や、制約の中で必要とされる高い集中力、五感だけでなく身体を目一杯使って体感することなど、その中に潜む一つの可能性を探求する。

授業内容：古典技法としてのフレスコ画技法を模写を通して試みる。物質が変化していく、その体験を目の当たりにしながら、実直に絵と向き合う時間に身をゆだね、その中で自身の展開に繋がられるのか考えてみる。

後期実技授業名：「アニメーション基礎」 担当講師：飯田 萌

学習目標：手描き、コマ撮り（実写も可）など、自由な表現でアニメーションを制作。編集作業はPremiereを使用する。

授業内容：映像研究と制作（自由な発想で）

後期実技授業名：「人物着彩」 担当講師：工藤礼二郎、鈴木吐志哉

学習目標：この授業では、単に人体の再現的描写にとどまらず、それを取り巻く空間との関係性や近代以降の人体表現の在り方を様々な角度から検証する。

授業内容：人体コスチュームモデルを固定ポーズにより描画する。

後期実技授業名：「制作と展示」 担当講師：久保田球愛

学習目標：企画構成・発信・展示を一貫して行えるようになることを目標としています。

授業内容：ギャラリー・プリントにて、グループごとに公開制作・展示を行います。授業外の今後の制作活動においても活かせるような実践的なスキルを学習し、一つの展示を自分たちで作り上げる力を養います。

後期実技授業名：「グラフィックデザイン基礎」

担当講師：奥定泰之、山本哲次

学習目標：人に見せる、人を驚かせる、人を誘惑する、などの実社会におけるグラフィックデザインの基本的な役割を考えつつ、それを踏まえた小型グラフィック作品を考える。紙媒体に使用される文字について考える。

授業内容：第一課題：グラフィックデザインやファインアート、イラストなどのジャンルを超えて、ものを作ることの楽しさを体感する。また、タイポグラフィや色面構成などのデザインの基礎を理解した上で、いくつかの小型グラフィック作品を試作する。
第二課題：文字のデッサンを通して文字の形を知る

後期実技授業名：「コミック基礎」 担当講師：石山さやか

学習目標：まずは漫画というものに触れ、親しんでみます。自分が今まで見てきた以外にも様々な表現方法の漫画が存在すること、言いたいことや見せたいものによって構成も描き方も変わってくることを、実際に手を動かすことで学びます。

授業内容：『漫画』とはそもそも何か、実際の漫画作品やその表現の多様性を眺めつつ、自分でも短い漫画作品を作ってみます。現代の漫画作品の発信方法やデビューまでの道筋、また制作の基本的な工程についても学びます。

後期実技授業名：「専攻別ワークショップ(絵画造形専攻)」

担当講師：工藤礼二郎

学習目標：「おとこ・おんな」「広い・狭い」のように、意味上の対(つい)をなす言葉を学生各自で選択しそれらを元に二枚の作品を描く。言葉のもつイメージをいかに絵画に置き換えるかをそれぞれの使用画材の特性も考慮しながら構築する。

授業内容：対義語をテーマに2枚の作品（F8号）を描く。

後期実技授業名：「専攻別ワークショップ(版画専攻)」

担当講師：鈴木吐志哉

学習目標：水性木版画の基本技術の習得

授業内容：水性木版画1版単色（墨摺り） 版木サイズ 900×600mm モノクロームの大型版木に取り組み制作することで、木版画水性摺り技法の基本と魅力を体験します。

後期実技授業名：「専攻別ワークショップ(イラストレーション・絵本専攻)」

担当講師：飯田 淳

学習目標：オリジナリティーのある作品を制作し、自分の「良さ」気づく事を目標とする。

授業内容：見えない物を、見える物にする。例えば、味覚や臭覚、音をビジュアル化する。

後期実技授業名：「専攻別ワークショップ(グラフィックデザイン専攻)」

担当講師：山本哲次

学習目標：文字をビジュアル表現のモチーフとして考えることにより、タイポグラフィに対する考え方を学び、さらに 1 年間で身につけた基礎力を基にコミュニケーションと表現の関係性を得します。見る人に告知内容がしっかり伝わるのが大切です。

授業内容：ポスターとフライヤーを、文字をモチーフとしたビジュアルを用いて制作します。その際、配布された原稿の情報が伝わるようにレイアウトします。

後期実技授業名：「専攻別ワークショップ(アニメーション&コミック専攻)」

担当講師：岡山拓史

学習目標：短期間での企画出し、撮影、編集、スケジュール管理など映像制作の一連の流れを体験し、制作した動画をメディアで配信する。

授業内容：映像制作の現場で必要となる撮影方法や編集技術の基礎、昨今のメディアやデバイスの特性を学びながら映像を制作する。

学校法人高澤学園

創形美術学校

〒171-0021 東京都豊島区西池袋 3-31-2

TEL 03-3986-1981 FAX 03-3986-1982

URL <https://www.sokei.ac.jp/>

E-mail: sokei@sokei.ac.jp